

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：西洋史学の事例を通じて学ぶ歴史的思考法 ILAS Seminar: Historical thinking through case studies of historiography on the West			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 教授 金澤 周作		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	8(8)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	文系校舎3階305金澤研究室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連 / 歴史学 / 論点						
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>この授業では、西洋史学の入門をおこなう。</p> <p>西洋史学は、現在の欧米とその影響圏をおおよそその空間的範囲とし、時間的には古代から現代までを扱う、たいへん広大な分野である。高等学校で学習した「世界史」のなかの西洋史の部分は、もちろん大学で西洋史「学」を始める上で大切な出発点となる。とはいえ、大学で実践されている西洋史学は、高校世界史の延長のような多様な史実のさらなる吸収と並び、学界で論争を呼んでいる重要な歴史的出来事や人物、概念をめぐる、相反するさまざまな諸解釈に対する深い理解を求めている。そこで、この授業では西洋史学上の主要な論点に触れ、ときに文献調査を踏まえ、自ら議論に加わる経験をしてもらう。高校までの学習とはまったく異なる学問の世界が開けてくるであろう。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
大学で歴史学を研究する上で必要な考え方を身につける。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、受講生の興味関心や要望によって、順序や内容を変えることがある。							
<p>第1回 西洋史学という学問とは何か</p> <p>第2回～第4回 古代・中世の論点</p> <p>第5回～第7回 中世・近世の論点</p> <p>第8回～第10回 近代の論点</p> <p>第11回～第13回 現代の論点</p> <p>第14回 総括討論</p> <p>第15回 試験</p> <p>第16回 フィードバック（方法は別途連絡する）</p>							
<p>授業では、担当者を決めて各論点を調査・討論する。したがって、1週目は概要を皆で議論し関連する文献を調査し、2週目と3週目は報告と討論というサイクルを基本としながら、各論点の様相と意義を学んでいく。</p>							
<b>[履修要件]</b>							
次の3点をすべて満たすことを要件とする。							
(1)高等学校等で世界史を履修していること							
ILASセミナー：西洋史学の事例を通じて学ぶ歴史的思考法(2)へ続く							

ILASセミナー：西洋史学の事例を通じて学ぶ歴史的思考法(2)

(そうでない場合は、並行して勉強する気があること)

- (2)西洋世界の歴史に多少とも関心があること
- (3)参加者と積極的に議論を交わす気持ちがあること

**【成績評価の方法・観点】**

平常点評価：調査・発表(30点)、討論への参加(50点)、試験(20点)

**【教科書】**

金澤周作監修『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）ISBN:9784623087792

**【参考書等】**

（参考書）

授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

第1回の授業で教科書の使い方を解説するので、それを読んで予習・復習を行なう。

**【その他（オフィスアワー等）】**